

秋田県 鳥海町飼料稲生産利用組合

1. 所在地

秋田県由利本荘市（旧鳥海町）

2. 地域の概要

由利本荘市鳥海地域は、秋田県の南端、山形県境にそびえる鳥海山北東に位置し、総面積は322.53k㎡、うち農用地面積は7%の2,237haとなっている。

水稻作付面積は1,090ha、乳用牛3戸160頭、肉用牛62戸500頭を飼養している地域で、古くから畜産が盛んである。

気象は内陸型で、積雪量は中山間部で3m以上に及び典型的な豪雪地帯である。

基幹作物は水稻で、良質米の安定生産と複合経営を推進しており、転作作物ではソバの作付を推進してきた。

3. 取り組むに至った経緯

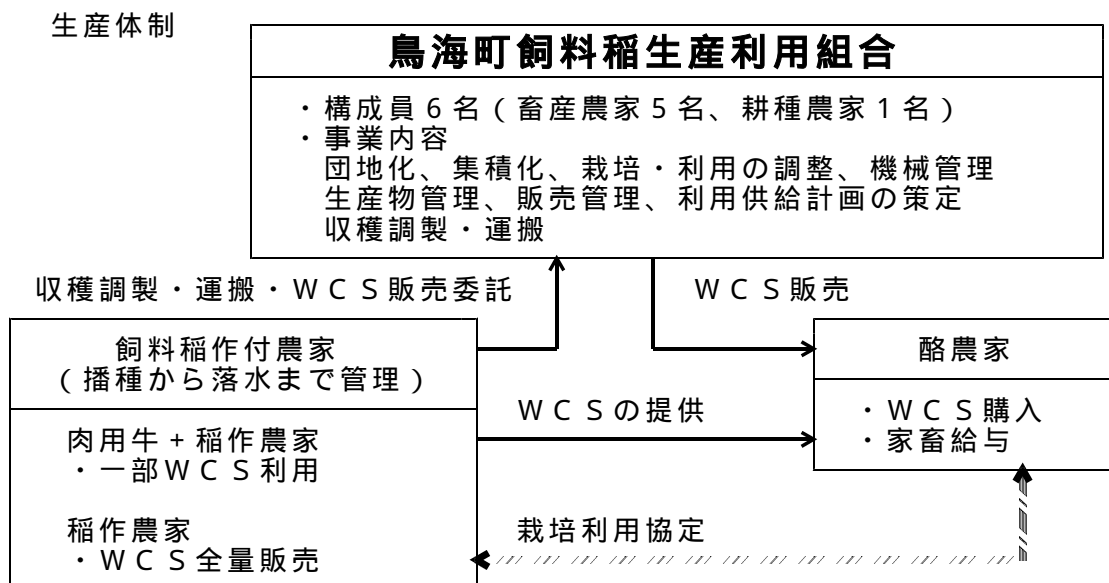
鳥海町は、これまで水稻の他に高冷地野菜の振興、加工用フキやソバの作付け推進に取り組んできた。しかし、1人当たりの耕作面積が少ないゆえに、作業効率は非常に低い状況であり、さらには水田の汎用化に係る暗渠排水等の整備率が低いことから、これらへの対応が重要な課題であった。

そこで、増加する生産調整面積に対応するため、平成12年12月に自給飼料増産に係る会議を開催し、転作田への飼料作物品目を検討してきた結果、町の和牛改良組合や酪農協会から稲発酵粗飼料の取り組みに対する希望があり、町が関係機関と協議を行った。

平成13年3月に関係機関からなる「鳥海町稲発酵粗飼料推進協議会」を設立するとともに、畜産・耕種農家を構成員とする「鳥海町飼料稲生産利用組合」を立ち上げ、事業の推進体制を整備し、稲発酵粗飼料へ取り組むこととした。

4. 推進体制と取組の概要

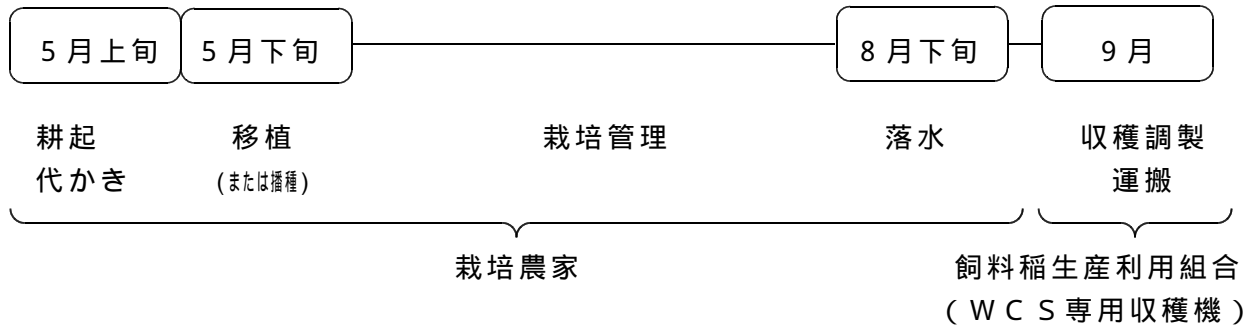
稲発酵粗飼料の推進体制は、関係機関で構成される鳥海町稲発酵粗飼料推進協議会が推進の舵取りを行い、鳥海町飼料稲生産利用組合が現場での作業を行っている。



平成16年の取組実績

作付農家	耕種農家	14戸	畜産農家	19戸
給与農家	繁殖農家	19戸	酪農家	1戸
受託面積	24.8 ha			
作業受託料金	25千円/10a (収穫・調製作業)			

5. 作付体系と作業分担



6. 利用者の声

1) 製品の形態、品質、運搬

ロール重量が200kg未満であり牛舎内での移動が簡単であることや、開封時のサイレージの取り扱いが容易であることから、小規模畜産農家にも歓迎されている。

また、収穫された稲の穂・桿の混合度合いが良く、発酵品質の良いサイレージができており、給与した農家の評判は良い。

2) 利用後の成果と感想

栽培に関して新たな機械投資が必要なく、収穫作業や生産物の幹旋を飼料稲利用生産組合が実施することから、耕種農家からは継続した作業要望が出されている。

7. 課題と発展方向

1) 今後の課題

転作という意識からか、圃場管理状況の悪い栽培農家がいまだ見受けられる。天候不良が続いた後は収穫作業に支障を来し、さらには品質の低下につながることもあった。今後は、組合で実施している圃場巡回を強化し、対策を講じていく。

また、町を中心とした関係機関団体が、栽培から収穫調製、飼料給与まで一貫して指導しており、今後も継続的に指導を実施する必要がある。

2) 今後の方向性

耕種農家、畜産農家ともに規模拡大の要望が出されているが、地域における専用収穫機の処理能力は約20haが限界であるため、当面は20haを目標に実施し、高品質な稲発酵粗飼料生産を維持することを目指していく。

収穫および運搬作業の効率化を図るため、耕種農家からの作業要望については、団地化された転作田を優先的に採択している。今後も団地化や耕作放棄地の積極的利用を図っていく。